

**第2回**  
**高校生「生きものの“つぶやき”フォトコンテスト」**  
**募集要項**

-2020年7月20日より受付開始-

生物科学学会連合（生科連）では、生物多様性の大切さを理解し、未来に継承する精神の育成を目指し「生きものの“つぶやき”フォトコンテスト」を行います。高校生の皆さんの若い感性で、自然の生きものの気持ちを想像し、その“つぶやき”を教えてください。  
今年には新型コロナウイルスの流行もあり、自然の生き物との共存の在り方を考える機会でもあります。奮ってご応募ください。

**<募集要項>**

**募集期間：**

2020年7月20日～10月31日

**応募資格：**

生物や環境問題に興味のある高校生

**応募条件：**

応募作品は、応募者本人が撮影し執筆した未発表のオリジナル作品に限ります。お一人2作品まで。他のコンテストとの二重投稿はご遠慮ください。  
応募作品および応募者情報は生科連のWebサイトなどで広報活動等に使用する場合があります。ご了解の上、ご応募ください。下の注意事項参照。

**選考・表彰：**

2020年12月上旬に生科連「地球生物プロジェクト」委員会にて優秀賞を選出し、受賞者に直接連絡いたします。優秀賞には、記念品、副賞（5000円図書カード）を贈呈します。また、受賞作品および受賞者情報（氏名、学校名、部活、将来の夢）は生科連のWebサイト上で公開します。

## 提出していただくもの：

写真、「つぶやき」、エッセイ（短い作文）、応募者情報をメールでお送りください。昨年の受賞作品は生科連ホームページでご覧いただけます。

<https://seikaren.org/news/365.html>

### 1、生きものの写真（生きものの情報、撮影場所、日時）

自然の中で生きている生きものの写真。スマホや携帯で撮ったもので構いません。その生きものについても調べて教えてください（生きものの情報例：セイヨウタンポポ、外来生物。ヨーロッパ原産、世界中に分布、など）。撮影場所、日時も書いてください。1年以内に撮影した写真に限ります。撮影に関しては、新型コロナウイルスの感染予防にも注意していただくようお願いいたします。

### 2、「つぶやき」

1、で撮った生きものの「つぶやき」。長さは1文程度。人に対すること、環境に対すること、ひとりごと、などなど。想像力をフル回転させてお願いします。

### 3、エッセイ（短い作文、200～400字程度まで）

その「つぶやき」を聞いたあなたの返答はなんですか？なぜ、その「つぶやき」を想像しましたか？人がいろんな生きものと共存するにはどうすればいいのでしょうか？などなど、生きものとの“心の対話”で感じたことを短い作文にして教えてください。

### 4、応募者の情報

- ① 応募者の氏名（ふりがな）・学校名・学年
- ② 自宅住所、郵便番号、電話番号、メールアドレス（連絡用。公表はしません）
- ③ 所属している部活名（例：生物部、バレーボール部、特になし、など）
- ④ 将来の夢（昆虫の研究者、バイオベンチャーの社長など）

## 提出方法：

提出書類1～4をメールで生科連事務局までお送りください。写真はJPEG形式、画像サイズは5M以下でメールに添付、文章（つぶやき、エッセイ、応募者情報）はメール本文に書き込んでお送りください。

**注意事項：**

応募作品の著作権は、撮影者に帰属します。応募作品は、生科連が催す展覧会、ホームページ、作品集、ポスター、新聞、雑誌、テレビなどに、使用することがあります。使用にあたっては撮影者の氏名、学校名、所属している部活、将来の夢などの応募者情報の表示を行う場合があります。以上をご了解の上、ご応募ください。個人情報厳重に管理し、関連する目的以外には使用しません。

応募作品に関しては、第三者の権利を侵害することのないように注意してください（無許可で個人の所有物を撮影などはしない）。第三者の権利の侵害が認められた場合、応募者本人がその責任を負うこととし、生科連は一切責任を負いません。応募については保護者の同意を得てください。

## 作品例



つぶやき：

**「えーと、こっちは空いてますけど。ソーシャルディスタンは？」**

エッセイ：

近所の海岸を歩いていたら外灯の左にはトンビが一羽、右にはハトが12羽とまっていました。これをみて幸せな気持ちになり思わずスマホのシャッターを切りました。私たち人間から見たらみんな同じ鳥ですが、違う種類であるトンビとハトは一緒に並ばないんですね。私たちの身の回りにいるたくさんの生きものも、それぞれが違う場所を好み、違う物を食べ、違う時間に活動していると考えたら、生きものの生活の場である自然を絶対に壊してはいけないと思いました。トンビがひとりでちょっとかわいそうに見えますが、トンビにとっては、この「ソロ」な感じが、きっと心地よいのでしょう。ハトは密着できて、なんか羨ましいです。(280字)

**写真の生きものの紹介：**トンビ：トビともいう。ピーヒョロロとなく猛禽類で小動物を食べる。日本では留鳥。世界中に生息。羽ばたかずに飛ぶ姿は、まるでグライダーのよう。大切なものをふいに横から奪われて呆然とする様を「トンビに油揚げをさらわれる」という。視力の良さと、素早い降下が特徴。

**撮影場所・日時：**静岡県沼津市 XX 町・2019 年 10 月 24 日撮影

**応募者の自己紹介：**

- 1、名前：花賀咲太郎（はなが さいたろう）伊豆半島高校 2 年
- 2、〒xxx-xxxx 静岡県三島市 xxx 町 X-X-X、電話 xxx-xxxx-xxxx、メールアドレス xxx@xxx.xx.xx
- 3、部活：演劇部
- 4、将来の夢：WHO で感染対策を担当したい

自然の生きものの気持ち进行想像して、その“つぶやき”を教えてください



第2回

# 生きもののつぶやき

高校生

## フォトコンテスト

~2020  
10/31まで



### つぶやき「あの夕陽まで届け！」

～エッセイ～

カメラを手に芦ノ湖の湖畔をあるいていると、足元に小さな「森」を見つけた。私は寝そべる様にしてその苔の森をじっと見つめた。

精一杯潮を伸ばして、「あの夕陽まで届け！」と言わんばかりに少しでも遠くまで胞子を飛ばそうとするその姿は、美しくも逞しい生命の営みを形にしたようだった。灯台もと暗しと言うのだろうか。普段目につかない足元にまで懸命に生きる命があるのだ。そんなことを、この苔の森は私に気づかせてくれた。

そして私は、ついさっきまで湖に映る夕陽やその上を飛ぶサギなんかに向けていたレンズを気がつけばその苔の森へ向けていた。シャッターを押す。そこには夕陽を受けて光輝く生命の姿があった。(昨年受賞作品より)

■ 応募資格：生きものや環境問題に関心のある高校生

■ 応募作品・応募条件等：

- ①写真とその情報（撮影場所、日時、生きものの紹介）、
- ②「つぶやき」、③エッセイ（短い作文、200～400字程度まで）、
- ④応募者情報（学校名、学年、住所、氏名、年齢、所属部活、将来の夢）をお書きください。詳しくは生科連HPをご覧ください。

応募作品は、応募者本人が撮影し執筆した未発表のオリジナル作品に限ります。一人2作品まで。

■ 発表・表彰：

2020年12月上旬に優秀賞を選出し、受賞者の方々に直接連絡いたします。優秀賞には、記念品、副賞（5000円図書カード）を贈呈します。また、生科連のWebサイト上で入賞作品を発表します。

■ 応募方法：

①～④を生科連事務局までメールで送ってください。写真はJPEG形式、画像サイズは5M以下でメールに添付。「つぶやき」、エッセイ、応募者情報はメール本文に書き込んでお送りください。

## 主催 生物科学学会連合

詳しくは生科連ホームページをご覧ください

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-11 浜田ビル6階  
TEL: 03-3816-0738 E-mail:seikaren@nacoss.com

生物科学学会連合

